

第1期麻生区区民会議審議と提案への取組一覧

◆全体テーマ「心が響きあう地域づくり」・H20年2月23日「心が響きあう地域づくり」をテーマに区民会議フォーラムを開催					
	審議テーマ	課題	提言	取組	審議の継承
企画部会	・子どもの見守り～地域のつながり「あいさつ」がはじまり～	登下校時児童の見守り	・区民の関心を高めるため広報の活用 ・町内会・自治会など既存組織との連携に向けた仕組みづくり ・シニア世代の地域社会への参加に係る仕組みづくり ・区民ニーズに即した支援、予算の有り方の検討	・区民会議ニュース臨時特集号をH18年11月に発行 ・タウン誌(マイタウン21)を活用(紙面買取)し紹介記事を掲載(H19年3月1日号、4月1日号) ・H18年度に帽子・腕章・ベストを制作し、町内会等の地域安全パトロール組織へ貸与し活用【継続】 ・「あいさつが交わりあえる地域づくり事例集」の作成と町内会への配布(H21年度)	第3期に引継・継承
「農」専門部会	・地元農産物と地域交流	「農」を通じての「地域づくり」 ①食育を通じての交流 ②直売所を通じての交流 ③市民農園及び援農を通じての交流	①食育 ・小学校におけるアンケート結果の取りまとめ・情報の提供 ・食育を通じての地域交流(モデル校) ・食育推進会議との連携 ②農産物直売所 ・JAと連携し「セレスモス」を核とした、地域住民の地産地消や農とのふれあいを促進する仕組みづくり ・「身近な直売所のマップづくり」は「セレスモス」の運営状況をみながら検討 ③市民農園及び援農 ・農業従事者への意向調査の実施 ・次世代育成策の実施 ・農地の適正利用策の推進 ・区民が「農」に親しむための施策検討	・区内小学校に「農業体験、食育に関するアンケート」を実施(平成19年) ・王禅寺小学校をモデル校として「学校農園を活用した地域づくり」を実施 ・市が食育推進会議を設置 ・H21・22年度にJAと連携し、区民参加の「楽農ツアー」を実施(H21年10月31日、H22年10月30日実施) ・セレスモス「情報センター」内にて地域住民との交流事業を展開	第3期に引継・継承
「高齢者」専門部会	・高齢者が輝く地域づくり	元気高齢者の地域参加や高齢者の見守り	・「老人いこいの家」の利用促進、活性化し、高齢者が集える場の確保、地域活動への参加促進	・老人いこいの家の運営委員や利用者にアンケートを実施、社会福祉協議会、神奈川高齢者生活協働組合にヒアリングを実施。 ・「老人いこいの家の活性化(案)」を第2期で取りまとめ	第2期に引継・継続

第2期麻生区区民会議審議と提案への取組一覧

◆全体テーマ「心が響きあう地域づくり」・H21年2月21日、28日、3月1日の3回に亘り区民会議出前フォーラムを開催 ・H22年2月7日区民会議フォーラムを開催					
	審議テーマ	課題	提言	取組	審議の継承
企画部会	・高齢者が輝く地域づくり	元気高齢者の地域参加や高齢者の見守り	・「老人いこいの家」の利用促進、活性化し、高齢者が集える場の確保、地域活動への参加促進	・「老人いこいの家の活性化(案)」をH21年3月に施設所管の健康福祉局に提出、取組を依頼 ・その結果、健康福祉局が「老人いこいの家」の愛称募集、利用者へのアンケート調査を実施 ・H22年3月に「いこいの家」の愛称が決定。FAX設置	第3期に引継・継続
地域交流部会	・文化芸術のまちづくり	川崎・しんゆり芸術祭の雰囲気作りなど側面支援	①川崎・しんゆり芸術祭における「市民参加の芸術祭」としての雰囲気作りと継続的な企画 ②新百合ヶ丘駅周辺の美化清掃によるイメージアップ	・「川崎・しんゆり芸術祭」に合わせ、小学生(H21年度)、小・中学生(H22年度)の絵画展をモデル事業とし開催。H23年度は、保育園児の作品展を区文化協会との共催により実施 ・関連団体に文化・芸術イベントを盛り上げる取組みを引き継ぎ「アルテリッカしんゆり」開催前の美化清掃活動(美化清掃ボランティア)、イベント盛り上げのための保育園児絵画作品展を開催(文化協会)	第3期に引継・継続
	・市民活動推進	地域の市民活動支援の場としての活用	①地域拠点施設としてのこども文化センターの広報 ②こども文化センター以外の市民活動支援の場を増やす ③将来的な条例改正も含めた検討	・「こども文化センター」の市民活動の拠点としての使われ方について、アンケートを実施 ・区民会議委員が各センターを訪問、ヒアリングを実施(H21年8～10月)し、「地域の拠点」となる施設の広報や情報交換の場の必要性等、課題を整理 麻生市民交流館やまゆりで、市民活動の拠点の情報提供など、市民の利用促進に向けた活動を実施【継続】	
	・異世代間の交流	世代を超えた交流の必要性	・エコバッグ作成を通じた世代間交流	・H20年度に「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラム、専修大学、保育園との協働により、区内7保育園にてオリジナルエコバッグを作成 ・平成21年度は2箇所のこども文化センターと老人いこいの家の合築施設で、区民会議と専修大学、こども文化センター、老人いこいの家が協働し、小学生と高齢者との交流を目的にエコかるたとエコバッグづくりを実施	
	・エコのまち麻生の推進	持続可能な地域社会の創造を目指して	①都市における生ごみリサイクル ②生ごみリサイクルと地産地消で都市農業振興、緑地保全のまちづくり	・レストラン・環境局・東京農大・区内農家の協力による生ごみリサイクルと地産地消のモデル事業を実施し、できた野菜を使ったメニューを毎月「食育の日」に提供【継続】 ・H21年11月29日「生ごみリサイクルと地産地消をテーマに区民会議フォーラムを開催	第3期に引継・継続
環境部会	・環境学習	麻生区エコカルテの活用	区内小中学校等に配布し、環境学習で活用	・エコ関連の取組事例等を主に小学生向けの教材としてまとめたエコカルテを作成(H22年3月)。区内小中学校等に配布	

第3期麻生区区民会議審議と提案への取組一覧

◆全体テーマ「人と人と心をつなぐ地域づくり」

・H24年3月3日「人と人と心をつなぐ地域づくり」をテーマに区民会議フォーラムを開催

	審議テーマ	課題	提言	取組	審議の継承
地域交流・文化部会	・高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり	地域で支え合うコミュニティシステムづくり a. 社会福祉協議会 ・利用者へのPR不足 ・利用頻度向上への取組み ・区全域での支え合い・助け合いの展開との関連付け b. 町会・自治会 ・地域でのつながりの希薄化 ・対象者の情報入手が困難 ・担い手不足と参加者確保が困難 ・災害に備えた日頃の活動 c. ボランティア団体 ・利用対象者への情報発信不足 ・活動場所や人材、資金確保が難しい その他 ・高齢者の生活の足 ・高齢者のメンタルヘルス	①広報活動(ガイドブック作成や総合相談窓口の設置) ・市政だよりと区別号の発行 ・ガイドブック(保存版)の発行 ・総合相談窓口の設置(ワンストップサービス) ②地域の絆づくり(ささえあい・見守りを進めるための具体的な方法の紹介と展開) ・町会・自治会等による支え合い活動の運用・展開 ・小地域での見守り・支え合いの仕組みづくり ・地域活動等を通じた地域交流の場の創出 ③担い手の発掘と育成など ・「生涯学習推進会議」の設置目的の明確化 ・区の地域人材育成方針の策定検討 ・「(仮)成人学級推進委員会」の新設 ・シニア地域デビューの企画を有効活用	【市政だより特別号】(H24年度中に発行予定) ・高齢者については、相談窓口の紹介だけでなく、シニア向けの地域活動情報や介護予防活動、施設、区で実施している健康教室、災害時の情報等、生活の様々な場面で必要とされる情報等の掲載を検討中 ・障がい者は、子どもから高齢者に至るまで、内容が多岐に渡るため、相談窓口の掲載を検討中 【ガイドブック】 ・ガイドブックは、市政だより特別号の内容とも重複があるため、特別号の編集を踏まえて内容を精査する予定 ・地域住民のつながりや地域課題解決力の強化を目的とした、区の「町内会事業提案制度」のさらなる活用について検討中。H22年1件、H23年2件、H24年4件と増加 ・町会・自治会相互の情報交換は連合会の事業を通じて実施 ・また、区では区内事業者の協力による「高齢者の見守りネットワーク」事業を、町内会・ボランティア団体では一人暮らしの個別支援、見守りの活動を展開中	
		・広報活動の更なる工夫 ・「にぎわい」感の創出 ・世代を超えた区民参加を実現するための連携やネットワーク ・施設・設備の充実 ・行政の協力支援	①文化担当官の設置 ・多くの区民がさらに芸術・文化を楽しむ体制づくり ・継続した文化行政を実施する体制づくり ・各団体との連携や地域情報の収集と発信のための調整・相談機能 ②(仮称)麻生区文化会議の設置 ・芸術家や団体等とのネットワーク強化 ・周辺施設との連携拡大、顔が見える関係づくり ・情報発信、相互協力、横断的な組織としての活動情報の連携 ③川崎市都市景観条例の見直しと弾力的な運用 ・関係者を交えた協議(規制の緩和など) ・街並みと芸術文化催事の「にぎわい」が共生したまちづくり	担当部署・関係団体と、区民会議提案や地域活性化ビジョン(NPOLしんゆり・芸術のまちづくり作成)を踏まえて協議調整中 ・景観計画特定地区の屋外広告物設置基準の改正についてまちづくり局が関係地権者等と調整中	第3期の積み残しとして、市アートセンター、活動団体、大学等に「芸術・文化のまちづくり」についての要望・課題等のヒアリング(報告書P12)
		・区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり			
環境・緑化部会	・循環型のまち・生ごみリサイクル	・「エコのまち麻生の推進・地産地消と生ごみリサイクル」の継続発展	①生ごみリサイクル講習会を定期開催 ・生ごみリサイクルリーダー派遣制度の活用 ・区廃棄物減量指導員連絡協議会などとの連携 ②写真展の継続実施 ・写真展の継続実施と区民への浸透促進 ・募集方法や展示方法の工夫 ③区独自の広報を ・「生ごみ減量・資源循環」の普及・啓発 ・「ごみを減量させたい」という強い意思と広報の工夫 ・独自で身近な実践例の紹介・広報 ・より効果的な方向活動の検討 ④市民農園に優先枠 ・市民農園借用条件に生ごみ使用者優先枠を設置 ⑤「仮・あさお広場(ファーマーズマーケット)」の定期開催 ・堆肥と農産物を交換できるシステムの構築 ・ファーマーズマーケット ・区全体で循環型まちづくりを目指す	・「生ごみリサイクルモデル事業」の実施 ・H23年9月5日「循環型のまち・生ごみリサイクル」をテーマに区民会議フォーラムを開催 ・「麻生区生ごみアンケート」の実施 ・モデル的な形態も含めて実施する方向で調整中 ・「生ごみからできた堆肥・肥料でつきた花や野菜の写真展」の開催 ・エコ啓発パンフを作成しH22年7月から公共施設で配布 ・市政だより区版等の活用を検討中	
				担当部署と協議予定。関係機関や農家の協力が不可欠であること、全市的な施策との整合性、法的な整理等の課題を想定	
		・グリーンアップ・里山ボランティア	貴重な「緑」の保全活動 ・緑地保全に向けた市民ボランティアの活用 ・手付かずの緑地保全活動の推進 ・参加者が連携し、新たな活動につながる展開	①地域に限定されない里山ボランティアの構築 ・管理の行き届かない緑地の保全管理システムづくり ・区全体の緑地保全・管理をする団体の立ち上げ ・保全管理団体を増やしていくシステムの構築 ・緑の保全活動を通じた新たなコミュニケーションの場の形成と地域の絆づくり ②「麻生区里山ボランティア」事業の推進 ・「麻生区里山ボランティア」の定着発展 ・区民会議の調査審議を継続発展する新しい形	・緑の保全活動に関する勉強会の開催 ・活動への参加とヒアリング調査の実施 ・モデル事業「里山ボランティア」の実施 【麻生区里山ボランティア事業】 ・H24年地域課題解決型提案事業としてを展開(主体は麻生の緑を守る会) →6月24日月読緑地及び7月22日栗木緑地で緑地保全活動を実施、8月26日栗木緑地及び9月23日千代ヶ丘西久保緑地で実施予定 ・H24年秋の中間報告、H25年春の最終報告で課題等を整理